

## 呑川レポート 2014-7

### マガモ発見・なんじゃもんじゃの樹

前々回の「呑川レポート 2014-05」で、「カルガモの交尾」を紹介しましたら、久しぶりに、こんな感想をいただきました。  
「こういう写真を撮りたいが、どうやったら撮れるか……」

「呑川レポート」配信当初は、こういうご質問を多くいただいたのですが、最近は少なくなっていました。  
再び関心を持っていただき、うれしく思います。

呑川の「生きもの」は、この場所に行けば必ず「カルガモ」が居て、その「交尾」の瞬間が見られるというわけにいかないのが、難しいところです。

でも、沢山のカルガモが「集団」で居る冬の季節から観察を始め、だんだん春が近づき、ペアが成立して行く過程を見れば、「もうまもなく、繁殖行動が始まるナ……」と自然に判るのです。

行くたびに、今日もとりわけ何も無かった……と、徒労感が出ることもありますが、でもそれ続けていけば、ご褒美とも言えるチャンスに、きっと巡り会えるのです。

#### 1) 「マルガモ」発見

先日、呑川を歩きながらのぞいて見ると、こんなカモがいました。



多くの人は、「いつものカルガモが居る・・・」と、気に掛けずに、通り過ぎていきます。

でも、少しいねいに観察すると、なにか少し違うのです。クチバシの色と、首からお腹に掛けての茶色が、なにか違うのです。いったい、これは「？ガモ」なのでしょう・・・



これは、「カルガモ」です。クチバシを見ると、「カルガモ」は黒く、先の方だけ黄色になっていて、あの「？ガモ」が「カルガモ」でないことが判ります。

「カルガモ」と比較しやすい写真が撮れないかとチャンスをうかがっていましたが、偶然並んだ写真が撮れました。



これなら判りやすいですね。右側の「カルガモ」と比べれば、クチバシの色、首からお腹に掛けての

色、さらには尾羽の色(「?ガモ」は白くピンと立っている)等が  
違うのです。

比較しないと、「?ガモ」も「カルガモ」と思ってしまうのは  
仕方ありません。

全体のイメージでは、どちらも似ていますから・・・

さて、この「?ガモ」と同じ特徴を持ったカモを見てみましょう。



これは雪の降った呑川で見つけた「マガモ」(青首)のオスです。

このカモを見ると、「?ガモ」と同じように、クチバシは全体が  
黄色く、首には白い輪があり、その輪から下は腹に掛けて茶色に  
なっています。

尾羽の先も白いのが目立ちます。

ただ、「?ガモ」は顔から首に掛けて緑色で無く、「青首」でない  
ので、「マガモ」で無いことはたしかです。

ちなみに「マガモ」のメスを見てみると・・・



2羽とも「マガモ」のメスですが、オスとは大きく違い、  
また「?ガモ」とも違います。  
いったい「?ガモ」は、何なのでしょう…?



これは「オナガガモ」の集団です。  
違う種類のカモが混じっているように見えますが、それはオスと  
メスの違いです。  
一般に、同じ種類のカモが集団を作るのが普通です。  
その方がペアを作りやすいのでしょう…



ところが「呑川」では、マガモ(右)は不思議に、  
カルガモ(左)と仲良く一緒に居る光景を、しばしば見かける  
のです。



ですから、これはカルガモ同士の交尾ですが、「マガモ」と「カルガモ」が交尾することも起こりえます。一般に別の種類の交尾は成立しても、それで子どもが産まれることは少ないようですが、「マガモ」と「カルガモ」は近い関係があるようで、子どもが産まれることがあると言います。



こうして出来たカモは、「マガモ」と「カルガモ」の合いの子で、「マルガモ」と呼ばれます。「呑川」には、こうした「マルガモ」もいるのです。

「呑川」のカモを観察していると、こんな発見にも出逢います。たかだか 10 秒にも満たない「交尾」の瞬間は見られなくても、こういう発見なら、少し観察を続ければ出逢えるのです。

## 2)なんじゃもんじゃの花

今、「呑川の会」では多くの課題に取り組んでいますが、その中の一つに新版「呑川は流れる 20\*\*」(呑川読本)の作成があります。

ただ、「呑川」の重要な魅力の一つとして、「生きもの」を考えると、それを担当する方がとても少ないのが実情です。

私は住んでいる場所が上流なので、どうしても上流中心になり、中流・下流の「生きもの」観察はおろそかになりがちです。

ですから、中流・下流を中心に「生きもの」を見てくださる方がどうしても欲しいのです。

これからも、「生きもの観察」の魅力を出来るだけ多くレポートしますので、ぜひ多くの方に興味を持っていただき、観察をして、さらには記録をしていただければうれしく思います。

ぜひ、良い「呑川読本」を創り上げたいと思います。

野鳥や昆虫、魚が難しいと言う方でも、「野花」や「樹木」なら取り組める方は多いと思います。



向こうに見える、白い花がたくさん咲いている樹は「ヒツツバタコ」、通称「なんじゃもんじゃの樹」です。

南雪谷の「雪谷小学校」の近く、「居村橋」の脇にあります。

正確には「ニチレイ研修センター」の駐車場にあります。



この花は、実に可憐で清楚で、うっとりしてしまいます。  
こんな形の花は滅多にありませんから、見るものの心を惹きつけます。  
だいたい5月の連休頃に咲き始め、連休終了後1週間くらいが満開になります。  
ところが今年はとても早く、連休終了とともに、多くの花は散ってしまいました。

樹木に咲く花は、その多くは2週間前後の開花期間がありますが、本当に美しいのは、たかだか1週間です。  
それぞれの樹木の最高の時季を撮ろうとすると、「今週は、うっかりしていた・・・」などとは言えないのです。  
でも「野鳥」と違って、「その場所に居るかどうかわからない」ということは無いので、足繁く通えばチャンスを逃すことはありません。

それでも、「しばざくらきんたろう児童公園」にある「桐」の大木は、その見事な花の魅力を引き出した写真を撮れたことがありません。  
毎年、開花時期が大きく動き、いつも早すぎるか、うっかりして遅すぎてしまうのです。  
呑川沿いの多くの樹木の、一番ステキな写真を撮ろうとすると、一生懸命観察しても、3年は掛かると思います。

ぜひ、樹木についても、多くの方の協力を得て、充実したまとめが出来ると良いと思います。  
そしてそれが、多くの方に「呑川の魅力」のポイントになる事を願っています。

-----  
(当面の日程)

- 2014/5/21 (水) 「おなづか小学校・呑川ウォーク」 8:30 おなづか小学校  
2014/5/22 (木) 「呑川の会・定例会」 10:00 mics 大田集会室 (生活センター2階)  
2014/5/28 (水) 「大田区との意見交換会」 10:30 大田区役所 902号室  
2014/5/30 (金) 「おなづか小学校・呑川ウォーク」 雨天予備日  
2014/6/7 (土) 「呑川悪臭ヒヤリング」 9:00 太平橋児童公園  
2014/6/14 (土) 「呑川の会・定例会」 13:30 蒲田小学校 (予定)  
2014/6/26 (木) 「呑川ネット・定例会」 10:00 生活センター講座室  
2014/7/15 (火) 「呑川の会・定例会」 10:00 洗足池図書館・多目的室

-----  
----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com  
-----